

2

より優しく より強い まつやまへ
一人でも多くの人を笑顔に

生活に安らぎのあるまち

安全・安心



”ひとつくり”に重点を置き
地域防災力を強化

消防団を充実強化

地域防災の中核になる消防団は、全国的に団員数が減少傾向にある中で、松山市の団員数は15年連続で増加し、令和5年4月1日時点で女性消防団員数は全国第2位です。

松山市では、多様な人材が活躍できる環境を整え、災害現場の最前線で活動する基本団員に加え、女性の消防団員、将来の地域防災を担う大学生や専門学校生の消防団員、営業時間中に出動する事業所消防団員など、さまざまな人が消防団として地域を支えています。

自主防災を充実

住民主体で地域防災力を強化するため結成する「自主防災組織」は、結成率100%

を達成しており、防災訓練や研修会などで住民の防災意識を高めています。また、地域の防災リーダーとして重要な役割を担う防災士の養成を支援し、防災士の数は全国の市区町村でトップです。その結果、自主防災組織にはもちろん、市立の保育所・幼稚園、小学校・中学校や児童クラブ、福祉避難所、災害協定事業所などにも防災士を配置しています。

全世代型防災リーダーを育成

令和元年から、産官学民が連携して「全世代型防災教育」に取り組んでいます。小学生から高校生まで「ジュニア防災リーダークラブ」を結成し、若い頃から防災の知識と技術を学んでいます。また、職域に応じた研修プログラムを実施するなど、小学生から高齢者まで切れ目なく防災リーダーを育成しています。

こうした取り組みが評価され、第26回防災まちづくり大賞 消防庁長官賞をはじめ、さまざまな賞を受賞しています。



松山市防災教育推進協議会を設立

「いつか」に備えて

災害に強いまちづくり

松山逃げ遅れゼロプロジェクト

どこでも起こり得る水害に、一人ひとりが身のまわりの災害リスクを知って、早目に適切に避難行動をとることが重要です。令和4年から「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」を実施し「学校」「地域」施設を中心に、マイタイムラインを普及させ、風水害の逃げ遅れゼロを目指しています。また、マイタイムラインの作成に加え、令和5年から「松山市マイタイムライン防災アプリ」を運用し、各種ハザードマップや発令中の避難情報、開設中の避難所などを確認できるようにしています。

さらに、市立中学校のマイタイムライン学習でアプリを活用し、学校のタブレットで生徒が作成したマイタイムラインを家族のスマートフォンと共有できる仕組みをつくっています。

危機管理体制を強化

令和3年に上下水道事業の組織を統合し、上下水道職員が一体になって災害対応する体制を整え、限られた人員で迅速で効果的に対応しています。また、DXを導入し、実行力を強化しました。

こうした取り組みが評価され、令和5年度国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」の防災・減災部門を受賞しました。

迅速な出動で救命率の向上へ

救急体制を充実強化

高齢化や感染症などで救急需要が増加するのに対応し、令和5年から救急隊を2隊増やすほか救急需要が多い日中に、市内中心部や救急車の空白地域へ待機場所を替える機動救急隊を配置するなど、いち早く現場に駆け付けられるよう救急体制を強化しました。

加えて、令和5年から県と県下20市町で「えひめ救急電話相談#7119」を運用し、医療機関受診の判断に迷った時に、医師や看護師などからアドバイスを受けられるようにし、救急車の適正利用や医療機関受診の適正化を進めています。

また、「消防指令センター」を松山・伊予、東温の3つの消防本部が共同で整備し、令和6年4月から運用を開始し、火災や急病の119番通報を受けています。消防本部間で連携や協力して効率化し、119番受信を効率化し消防隊や救急隊が迅速に出動できるようにになりました。



生活に安らぎのあるまち

安全・安心

より優しく より強い まつやまへ
一人でも多くの人を笑顔に

僕は「防災についての知識を身に付けたい」と、ジュニア防災リーダークラブの一員として活動を始めました。活動を通じて防災の大切さを学んだことから、防災リュックを準備しました。また松山市は防災士の人数が全国1位なので、将来は防災士になりたいと勉強中です。防災は気象とも密接に関わっていることから、気象予報士になりたいという夢ももっています。そうした資格を生かして、松山の人や暮らしに役立つ人になりたいです。

防災士と気象予報士、2つの夢を叶えて地域に役立ちたい



まつやま
NEXT
GENERATION

～笑顔を広げ未来へつなげるこども大使～

松山市立余土小学校
村上 紬さん